

怒る龍 四組 今道周雄

今年の年賀状を AI で描いたら恐ろしげな龍となった。不吉の兆しかと思っていたら、能登半島の大地震が起きてしまい、その驚きが収まらぬうちに、羽田空港で旅客機と海保機が丸焼けとなる惨事が起こった。今年の龍は怒っているに違いないが、その原因は何だろうと考えていたら、裏金問題やら統一教会誤魔化し事件など、次々にでてきた。憲法が定める平和主義をくつがえす、戦闘機輸出の可否が次の怒りのタネとして控えている。

斯くして、歌を詠む心境にならないまま一月が過ぎた。辰年生まれのも私に怒っている。今の日本にたらないものは「至誠」「剛健」であろう。自らの言動を白日に晒して恥じない人が減ってしまい、その結果、三菱電機の品質問題、ダイハツの品質不正、森友・加計、裏金、統一教会、等等、あらゆる場面で見聞きにたえない問題が起こっている。

● なみ揺ればかくも脆きか我が国土嘆きあふるる能登の岬よ

一瞬のうちに肉親を奪われ、家も財産も無くした方々の歎きを想うと心が痛む。

● 勇み立ち飛び立たんとすその時に打ち砕かれし人々哀れ

海保機の乗員は、能登地震救援のための品々を積み込み、滑走路へと向かっていたが、着陸してきた日航機とぶつかり炎上して機長だけが生き残った。乗組員5人が犠牲となった。

● 乗員は機体に積みし救援の品々共に火の玉と化せり

日航機の機首がぶつかった海保機は瞬時に炎上して胴体は砕け散った。日航機も胴体着陸のよう滑走路外で停止したが、エンジンから出た火が胴体に周り、三十分ほどで全て焼き落ちた。

一月半ばになり、ご近所仲間とウォーキングに出かけた。今回のコースは二宮近辺で、見所は川匂神社と吾妻山である。川匂神社は「延喜式」に記載されている古い歴史を持ち、地名となっている「二宮」は「吾妻鏡」にでてくる「二宮河勾大明神」から取られている。吾妻山にはあずま神社があり、弟橘媛命が海髪の怒りを静めるために海中に身を投げたところ、その筈が海辺に流れ着き、山頂に埋められたという伝説がある。山頂は標高百三十二メートルの低山ではあるが、三百六十度の大パノラマを楽しむことができる。

● 見渡せば丹沢はこね相模灘遠く見ゆるは大島の影

歌の中には収まりきれなかったが、東には三浦半島まで見ることができた。上りはけっこう急で大変だったがこの景色を見て疲れが飛んだ。

● 菜の花の香り満ちたる頂きは、老いも若きも自然に還る
芝で覆われた頂きは広々としていて、お年よりも子どももつれも皆嬉々として花と景色を楽しんでいた。

● 川勾なる神社^{やしほ}の庭の奉納歌友の名ありてしばし懐しむ
神社には奉納歌を納めたガラスケースが立っていて、数十首の短冊が並んでいた。それぞれが大変よい歌であったが、その中に二宮に住む友人の名前があった。三首ほどあったので、熱心に歌を詠んでいるのだらうなと想像した。

(完)